

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501248		
法人名	特定医療法人社団千寿会		
事業所名	高齢者グループプラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan_i=true&JigyosyoCd=0173501248-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念をもとに、一人ひとりの価値観や生活歴やこだわりを大事にケアに繋げて実践している。また、入居者一人ひとりのやり遂げたい事は何かを本人の行動や、本人から聴くことを大切にし対応を行っている。ホーム周辺は自然がたくさんあり春夏秋冬、四季折々の景色を楽しむことができ、開放感があり明るく笑いのある事業所となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者グループホームプラタナス三愛は自然に恵まれた静かな環境に位置する平屋建て2ユニットの事業所です。ウッドデッキや広い庭や畑、花壇を有しており生活環境の構成に優れています。多種の医療介護福祉サービス事業を展開している医療法人が運営母体で、医療面や災害対策、研修等様々な面で連携が図られており利用者サービスの質の安定が窺えます。今年度は自粛ですが、例年は事業所夏祭りや忘年会に家族も招いて特別な食事やカラオケ、スイカ割り、コーヒー牛乳の速飲みなど其々趣向を凝らして行われ、また同法人他事業所で催される祭りや演奏会へ参加したり、ポロコタンなど遠出の外出も行っています。今年度は感染対策を講じつつ可能な場所への外出や施設内で数字合わせやパズル、釣りゲーム、卓球や体操など利用者が自由に参加して余暇を過ごしています。精神症状が強かった方が医療と介護の協働的な支援により安定した生活に向かったり、入浴に拒否のある方では有する家事能力を引き出し作業を担ってもらった結果、入浴可能となるなどアセスメントやモニタリングを繰り返し本人のより良い姿を検討する介護計画や専門性の高いチームケアも特筆の点です。本人の希望や意向を尊重し、心と体を支えている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホールに掲示し、月1回のミーティングで業務の振り返りを行い、理念の実践に努めている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を標榜し、契約書、重要事項説明書に明示しています。職員が言葉を紡ぎ合い作成したユニット理念も掲げられミーティングにて振り返る機会があります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩で知り合った近所の方から鉢植えを頂いたり、花を見せて頂いたりと交流している。また、ボランティアの方が敷地内の畑作りをしてくださり、入居者と交流している。	今年度は地域とのつきあいは自粛していますが、例年、同法人の他施設で催されるマンドリンや中学校吹奏楽部の演奏会や祭り等に参加しています。利用者が外出先で援助が得られるよう地域の喫茶店や商店とも協力関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人にて認知症家族教室「福寿草の会」を通じて行っている。ご家族にはお声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営の運営推進会議を行い、利用状況や現状の報告をし、委員からの意見を聞いている。また、運営推進会議議事録をホール掲示板に掲示している。	今年度5月からは運営推進会議メンバーへ電話にて聞き取り調査を行い内容を書面にて報告しています。消防や警察、地域包括支援センター等からの情報や新型コロナウイルスへの対策、災害訓練実施状況などを報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の状況を伝えており、助言が必要な時は助言を得られるよう良好な関係作りが出来ている。	市から感染症対策等について適宜メールが届き法人本部からの指導と共に対応しています。管理者は必要書類や主治医の意見書等の提出に直接市の担当窓口に出向いています。例年参加している市内ケアマネ連絡会は自粛となっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、早番者出勤前に開錠し、夜間は遅番者退勤後に施錠している。毎月1回実施しているミーティングにて、一つ一つのケアについて意見交換し身体拘束防止に努めている。	身体拘束・行動制限廃止マニュアルを定め、毎月のミーティングで適正化に係る内容の検討や事例、言葉がけについての確認が行われ、事故防止委員会でリスク予測等が話し合われています。これらに係る内部研修は年2回実施としています。玄関は防犯上の理由により夜間帯のみ施錠しています。	身体拘束適正化に係る書類の整備を行い、取り組み内容の実際を分かりやすい書式に変更する予定ですのでその実施に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連研修への参加やミーティング等で虐待防止の強化を図り、ストレスを溜めないよう職員間では何でも話し合える関係性を築いている。管理者も職員のストレスが溜まらないよう話を聞くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連事業所や同じ施設内の別ユニットに成年後見制度を活用されている入居者がおられ、今後必要だと思われる時には施設内で検討し、関連事業所から助言を頂き、申し立てを行っていきたく考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を行い、入居者・ご家族の理解や合意を得たうえで契約を締結させていただいている。改定時には書面や電話で説明し承諾を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置している。また、入居者のご意見やご要望は日常会話から得ている。また、ご家族には面会時や電話にて意見を頂き、日々のケアに反映させている。	現在、面会や福寿草の会は自粛中であり家族の訪問は控えてもらっています。家族から今後の面会について意見等が寄せられ、法人本部へ伝達しています。利用者からも忌憚のない声が上がするなど話しやすい環境が窺えます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや年1度の人事考課での面談が意見交換の機会となっている。それ以外でも、いつでも意見を管理者に言える雰囲気や関係作りを行っている。	年に1度、管理者が職員との面談を実施し、年度予算を立てる際にも職員に意向を聞くなど一緒に話し合いながら調整しています。またリーダーが職員との会話の中で意見を拾い管理者に繋げるなどの環境も整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、一人一人と話し合いを行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内のスキルアップ研修や外部研修に参加している。研修の案内は職員の見える所へ掲示し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	月1回、理事長及び関連施設の管理者による会議を実施し、状況説明や意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行いご本人に合った入居の方法を検討し、入所後もご本人やご家族・日々の生活状況から情報収集を行い、ニーズを確認していくことで安心できる関係作りを構築できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談時に可能な限りお話を伺っている。また、専用用紙にご本人の情報やご家族の意向を記載して頂いている。入所後は、ご家族に電話連絡し状況を伝えることでコミュニケーションを図り、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の情報を把握し、サービスを開始する時点で最善のサービスを提供できるよう、母体法人や関係機関と連絡を取り合い情報収集し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で役割ややりがいをもって頂き、お互いが助け合って生活していると思えるような共同生活への意識づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の家族通信で施設・入居者の近況を連絡し、支援での検討事項は電話で相談するなど、常にご家族のご意見を伺いながら対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行く事や、ご家族がご本人の馴染みの人と一緒に面談に来所する事、ご家族との年賀状や手紙のやり取り等、関係性を保つよう努めている。また、馴染みの場所へのドライブも計画実行している。	今年度は自粛していますが、例年は家族の協力を得た一時帰宅や外泊、法事などに出かけたり、友人の訪問があります。面会が難しい中にあるは、家族との電話や通信、馴染みの場所へのドライブ支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格等を理解し、他者と交流が図れるよう食卓の席やソファの配置を行っている。またレクリエーションで関りあえる環境作りを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や病院に面会に行き関係性を保つよう努めている。退所後も施設の畑作りをボランティアで行ってくださるご家族もおられ、来所時にお話を伺うなど関係を維持している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動から本人の思いや意向を考察し、意思表示が困難な入居者の場合には、ご家族から聴くことを心掛け、利用者本位に繋げている。	日頃の言動や様子、仕草などから利用者の本意を察するようにしています。把握が困難な場合は、家族から生活歴を聞き、支援の中で本人の望むところを検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はご本人・ご家族・担当ケアマネジャー等から、生活歴や既往歴・趣味等の情報収集を行い、入所後も必要時にはご家族や関係機関と連絡を取り合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後の日々の会話や行動を観察・傾聴し、バイタル測定で体調の把握に努めている。ミーティングで各入居者の支援について話し合い、支援に繋げている。また、議事録を作成し情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中での気づきをミーティングに持ち寄り、ご本人の課題として検討が必要な時はカンファレンスを実施し、現状に即した支援を提供できるよう介護計画を作成している。	センター方式からICFモデルへアセスメントを移行中です。課題分析シートは本人の言葉等も記載し検討や評価を行っています。今後のより良いケアのために必要な支援が盛り込まれるよう関係者間で話し合いを行い介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づきを各入居者の個別支援経過に記載している。また、申し送りノートを活用して情報共有を図り、その後のケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じて頂けるよう桜や紅葉を見に行くドライブの実施や、地域のスーパー等への買い物にも柔軟に対応している。また、ご家族のご協力を頂き、自宅への訪問を行うことにも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や関連施設のイベントへの参加や、美容室に行けない入居者には、訪問美容室を利用して頂くなど支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所面談時にかかりつけ医の確認を行い、ご本人・ご家族の希望があれば、かかりつけ医を継続している。	利用開始前の馴染みのかかりつけ医の受診が可能です。協力医療機関への外来受診を支援し、歯科口腔外科医師と連携した口腔衛生にも力を注いでいます。週に1度看護師による健康管理支援が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	母体法人の三愛病院とは24時間体制で連携を取っている。また、週1回の訪問看護師と連携し、受診の必要性や医師への上申の助言を受けて、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人が安心して療養できるよう医療機関への情報提供を行い、医師や看護師と連携し早期に退院出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、事業所対応で可能な事や限界などを説明しご理解いただいたうえで、ご本人・ご家族の想いを尊重し支援している。また、主治医と連携し納得のいく終末期を過ごすことが出来るよう取り組んでいる。	利用契約時に重度化した場合における(看取り)指針を説明し同意を得ています。医師の判断に基づき家族、職員、医療ソーシャルワーカーで今後の方針を話し合っています。法人関連施設等への移行支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体法人で実施される救命救急の研修に参加している。急変時のマニュアルを作成し適切な初期対応が出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また、管轄消防署立ち合いの下、火災訓練を行っている。災害時の為に備蓄食料等を1週間分用意している。	今年度は4月に日中・10月に消防署の協力を得た夜間想定火災避難訓練を実施しています。災害備蓄品を確保し、災害発生時は法人施設と連携し対応に当たる事としています。	広域避難場所への経路・所要時間等の確認、地震想定訓練の実施に取り組む事としていますのでその実現に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として入居者を尊重し、言葉使いや接し方に配慮し対応している。また、入居者の要望に合わせた接し方や、同性介助を行っている。	利用者へはさん付けで呼びかけし、言葉使いはミーティングで確認しています。利用者の視界に入ってから応答するなど意識を向ける関わり方で本人が安心できる接遇に配慮しています。個人記録類の適切な保管場所を取り決めていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情・言葉・行動から想いや意思を感じ取り、入居者が自ら行動し自己決定できるように、共に行動したり、環境を調整するなどの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	就寝時間や起床時間、日中の過ごし方等、可能な限り個々のペースを尊重した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類の衣替えを一緒に行っている。また、自分で着替えを選べない入居者には、好きな色や柄の服を着ていただくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事から入居者の好みを把握するように努めている。メニューに季節の食材やそれぞれの好みの物を取り入れている。日常的な支援として、食材の下ごしらえ・盛り付け等を一緒にを行い、同じ空間で食事をしている。	職員が利用者の好みや旬の食材、畑の収穫物を取り入れて献立し、彩りや盛り付けも工夫して美味しい食事を提供しています。誕生日食はもとより季節の行事食や天丼、寿司などテイクアウトも適宜活用しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を把握し、時間帯や好みなど入居者のペースに配慮しながら確保できるように支援している。食事常食・刻み食・ペースト食で個々の状態に応じた形態で提供している。食事・水分量は日々記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを行っている。母体法人内の歯科医と連携し、入居者によっては口腔ケア用スポンジ・口腔ケア用ティッシュ等を用いて対応している。また、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、個々の入居者のタイミングに応じた声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らすように支援している。	水分・排泄・生活パターンシートにて1人ひとりの状態を把握しています。本人の生活リズムを整えタイミングに応じて適宜誘導し排泄を促しています。排泄が自立している方も多く出来る力が維持されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個々の排便状態を把握し、飲み物に乳製品やオリゴ糖、食事は食物繊維の物を取り入れて、自然排便に繋がるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	午前・午後と入浴時間を作り、入居者の希望の時間帯に入浴が出来るようにしている。また、同性介助や洗髪方法の工夫・入浴の手順等に配慮して支援している。また、入浴前から雰囲気作りも行っている。	入浴の設定時間枠を広くして利用者の希望の時間や本人のタイミングに応じて入浴できる態勢です。前向きな気持ちになる声かけを工夫したり、本人の好みの湯道具や湯温、洗髪にシャンプー・ハットを用いるなど利用者の心情や安心感に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを考慮し、昼夜逆転の生活にならないよう支援している。また、個々の状態に合わせ、馴染みの寝具を用いたり、湯たんぽの活用や体位の調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックシート及び服薬マニュアルを作成し、チェック機能を活用することで服薬ミスの防止に努めている。変更があれば申し送りや服薬チェックシートに記入することで内服状況の変化に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中からヒントを得て、生け花や花壇づくり、卓球・季節の飾り作成等を実施している。また、天気の良い日は散歩やドライブ、中庭でのお茶会など楽しい時間を過ごしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って、施設周辺への散歩や、近隣へドライブに行くなど支援を行っている。また、ご家族から要望があり、法事等への参加もされている。	例年、桜坂公園の並木道や鷺別川での散歩、白老のポロトコタン、回転寿司や蕎麦屋などへ外出や外食をしに出かけていました。現在は対策を講じつつ道の駅へのドライブや周辺の散歩、テラスでお茶会をするなどしています。受診後の病院売店での買い物も楽しみになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもとに管理者が預かって金銭管理をしているが、金銭管理が可能な入居者には、自己及びご家族の責任のもと、ご本人が所持し使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を使用しご家族や知人と電話で話せるよう支援している。また、手紙や写真を郵送して下さるご家族もあり、ご本人に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には中庭が見渡せる吹き出し窓があり、四季の変化を見る事が出来る。また、浴室やトイレには表示をして分かりやすく工夫している。壁には季節に応じた飾りつけを行い、各居室入口付近には名札や写真を掲示し、入居者が混乱しないように配慮している。	共用空間は広く明るい造りでリビングから山が見渡せ四季が感じられる環境にあります。ウッドデッキも設置され中庭にベンチを置くなどして生活のシーンでの活用もなされています。季節感ある飾り付けや絵画が飾られています。シーリングファンや湿温度計で空調を管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や中庭にベンチを設置し、独りで過ごしたり、気の合う方とお話を出来る空間を用意している。また、リビングの食卓やソファの位置を入居者同志の関係性が保てるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、自宅で使用していた馴染みの物を持って来ていただくよう説明し、居室に思い出の品や写真等を飾り、居心地がよく過ごせるよう支援している。また、生活に合わせて家具の配置を工夫しご本人が安全に暮らせるよう努めている。	居室にはクローゼット、ベッド、消灯台、テレビが備え付けられており、出窓もあり明るい室内です。使い慣れた馴染みの家具や調度品、愛着のあるものや大切な品々を持ち込んでいます。本人の状態に合わせて安心できる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは認識して頂けるよう表示し、各居室入口には名札や写真を掲示する事で認識できるよう工夫している。居室内では、バランスを崩した時などを考慮し、何かに掴まれるよう家具を配置し安全な環境作りを努めている。		